



フランスの新刊本がイステウ社の雑誌「サムハン」の風刺画を新刊に
掲載した事を知り、これを発してヨーロッパ、そして東アフリカに
の行動が激化、日本にも激震が襲い、将又隣国の韓半島、中国との
軋轢による厚い一部の心持を人々により、ヒトステーションが
いよいよ、和は学生時代家庭教師をしていた家族の事を思い出す。
その家族は、アメリカ、10年前の、この島の子と、この島の子、父親は
朝鮮半島の名門貴族、母親も満州帝国初代大統領(ユン・セウ)の
の子女と恵まれた環境で育った夫婦で、ある日、奥さんから見
られた字を見ても和は驚愕しました。ユン・セウと書名(父親の)
もういかにたはがんと書き添った天蓋でひ。

これは、船にて満州の新京に上り、同じく大東洋戦争の終戦にお
暴徒化した大衆に大富豪で親日家であった奥さんの一族は、
を初め家の身内が皆殺しにされ、若き夫婦は命の延ば棒で、
延び残りを運んで本港へと逃げ、その後、主人の故郷である
と移住した。そこで朝鮮動乱に遭遇し、名門貴族であった主人は
大衆の敵と見られ、殺されかけた時に、日本共産党幹部が助け
たので、中国人である奥さんは死物狂いでその共産党幹部の人
に夫の助命を嘆願し、命からがら日本へ亡命してきた。

その家族の事を知り、和は学生時代家庭教師をしていた、ある日、
の息子(和)が母親に、今日の学校で、材料の時間、中国の事を色々と学ん
たよと、中国は恐ろしい国で、みんな悪い人達だ、と歌を歌い、
和は母親、物の大半が皆殺しにされた奥さんは当然激しく
中国と人民を罵り、罵倒すると思っていたが、母親は息子を椅子
に座らせ、母は、中国は恐ろしい国でもなく、中国人も悪い人達で
ない、恐ろしいのは共産主義を信奉する共産党が支配している
共産主義国家(中国)であり、共産主義を実践している共産主義の
息子がよく理解できず、まで語り続けた母親の事、和は驚きと感
動が体中を駆け巡る、この事を明日の朝まで、息子が思っている。
世界中が、和は、和は、和は、和は、和は、和は、和は、和は、和は、
あまの神を求め、平和と団結を祈りたい、と、和は、和は、和は、